

## 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 株主総会の基準日 毎年3月31日  
※その他必要がある時は、あらかじめ公告のうえ、基準日を設定いたします。
- 期末配当金受領株主確定日 毎年3月31日
- 中間配当金受領株主確定日 毎年9月30日
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号（〒530-0004）  
（平成19年5月7日より変更）  
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
電話 0120-094-777（通話料無料）
- 同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
- 単 元 株 式 数 100株
- 公 告 方 法 公告方法は電子公告といたします。  
<http://www.asahipretec.com/ir/>



 アサヒプリテック株式会社

神戸本社

〒650-0001 神戸市中央区加納町四丁目4番17号 ニッセイ三宮ビル

TEL. (078) 333-5600 (代) FAX. (078) 333-5681

<http://www.asahipretec.com/>



株主の皆様へ

## 第45期 中間報告書

平成19年4月1日～平成19年9月30日



古紙/リサイクル配合率100%再生紙を使用しています



地球環境に配慮した大豆インキを使用しています



代表取締役会長兼社長

寺山 満春

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社第45期事業年度(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)中間期の概況についてご報告申し上げます。

当上半期におけるわが国経済は、企業部門の収益が伸長する中、設備投資が底堅く推移し、景気は堅調に推移いたしました。このような経済環境の下、「チャレンジ1000～新たなるステージへ」をスローガンに掲げた第4次中期経営計画の2年目を迎え、当社グループは、収益力ある企業体質を維持・強化しながら、既存事業でマーケットシェアを高めるとともに、新規

事業分野の開発に努め、事業拡大を推進しております。

貴金属リサイクル事業におきましては、電子材料、歯科材料、宝飾の各分野で当中間期に回収したりサイクル原材料の総量は前年同期を上回りました。金・銀・パラジウム・プラチナのいずれにつきましても、平均販売単価は前年同期を上回って推移いたしました。また、主力工場であります埼玉工場、福岡工場の増強が完了いたしました。

一方、環境保全事業におきましては、工場や試験研究機関等から排出される廃試薬・廃液の取扱量が前年同期を上回り、写真感光材料分野の縮小を補いました。また、本年5月に株式会社太陽化学を完全子会社化し、本年11月には株式会社サニックス北九

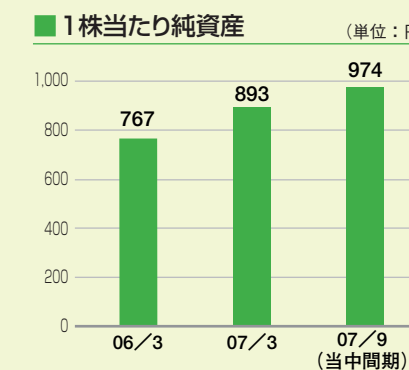
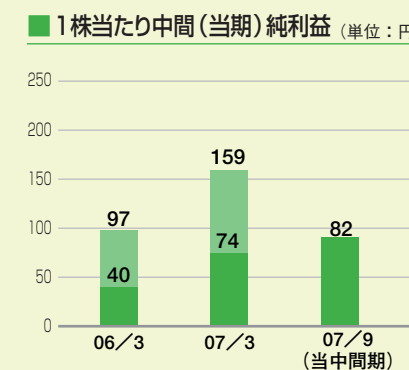
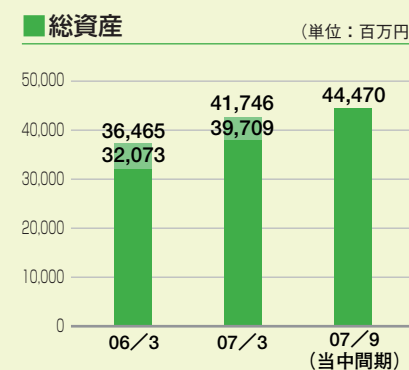
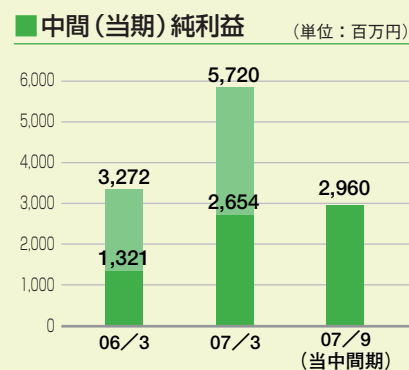
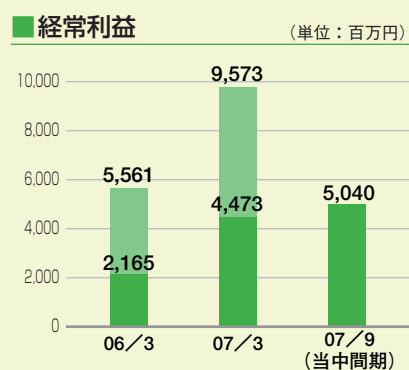
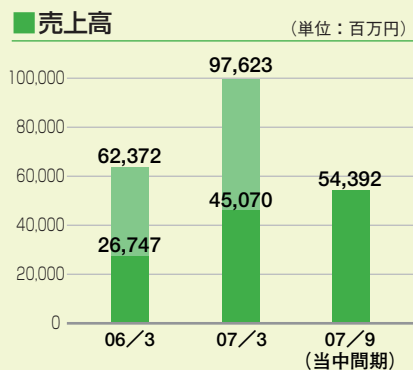
州工場の事業譲渡を受けました。このような企業集団の拡大により、顧客開拓やサービス向上等の面で相乗効果を発揮いたしました。

当期の中間配当金につきましては、当社の経営状況と株主還元に係る基本方針に従い、1株当たり25円とさせていただきます。

当下半期については、原油をはじめとする原材料価格の上昇、米サブプライム問題に端を発した金融市場の混乱など、経営環境の先行きには不透明感があるものの、当社グループが一体となって当期の業績目標の達成に向けて全力を尽くす所存でございます。株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

財務ハイライト (連結ベース)

■ 中間期 ■ 通期



※当社は2006年10月1日付で株式1株につき1.5株の株式分割を行っております。1株当たりの指標は株式分割後の数値に調整しております。

### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「社会的貢献」「企業の持続」「人間尊重」を経営理念として、安定と成長の両立により企業価値を継続的に高める経営を実践しております。昭和27年の創業以来、貴金属リサイクルおよび環境保全の両事業において、事業環境が激しく変化中、新たな分野での事業開拓等により着実に成長を遂げてまいりました。今後とも、すべてのステークホルダーとの関係を大切にしつつ、循環型社会形成に幅広く貢献することを通して事業の発展を続けていきたいと考えております。このため、中長期的視野に立った新規事業の創造、リスクマネジメント体制の強化および経営の総合的な効率向上を重視いたします。

### (2) 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、取締役会決議により剰余金の配当等を行う旨の定款変更を行っておりますが、これまで、安定した収益力の維持とさらなる成長によって企業価値の向上を図り、配当等を通して株主の皆様の期待に応えることを基本方針としてまいりました。また、成長分野への投資や新規事業開発等に備えるため、内部留保の充実を図ることも重要であるとの基本方針に変わりはありません。このような方針の下、剰余金の配当につきましては、各事業年度の連結および個別業績、財務体質のさらなる強化、今後の当社グループにおける経営戦略等を総合的に勘案のうえ、株主の皆様に対する利益の還元を実施してまいりたいと考えております。

以上の基本方針を踏まえ、当中間期の配当金につきましては、1株当たり25円とさせていただきます。

### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、「チャレンジ1000～新たなステージへ」をスローガンとし、第4次中期経営計画（平成18年4月～平成21年3月）をスタートさせました。当初、最終年度の連結売上高1,000億円、連結営業利益75億円を経営目標としておりましたが、初年度である前期第44期（平成19年3月期）において、エレクトロニクス分野、宝飾加工・製造分野などで貴金属回収量が大幅に拡大し、販売単価も想定した水準を上回って推移したため、当初の目標をより早期に達成することが可能であると判断し、平成19年3月、次のとおり上方修正しております。

	当初計画	現計画	
2008年度 経営目標	連結売上高	1,000億円	1,300億円
	連結営業利益	75億円	120億円
	連結営業利益率	7.5%	9.2%
	連結DOE(株主資本配当比率)	3.6%	5.0%

### (4) コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

上場企業としての社会的使命と責任を果たし、持続的な成長と発展を実現するため、コンプライアンスを重視しつつ、経営環境の変化に迅速に対応できるトップマネジメント構造の整備および事業執行体制の充実を推進しております。

### (5) 会社法に基づく内部統制システムの整備状況

取締役会は、経営の基本方針・計画・戦略・法令で定められた事項、その他経営に関する重要事項を決定するとともに、当社グループの事業執行状況をチェックする体制をとっております。

監査役は、取締役会に出席しコーポレートガバナンスの一翼を担う独立の機関であるとの認識の下、業務執行の全般に亘って監査を実施しております。

会計監査人である新日本監査法人は、監査人として独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明しております。

また、当社は、当社全グループを対象として業務の適正な運営・改善・効率化を図るべく、内部監査室による計画的で網羅的な内部監査を実施しております。

### (6) リスク管理体制の整備状況

当社グループの事業遂行プロセス、業務構造等に潜在するリスクを適切にコントロールするため、全社横断的組織として、リスクマネジメント委員会を設置しております。リスクマネジメント委員会は、CSR推進部を事務局として事業活動上のリスクの把握・評価および対策を実施しております。

これらの管理体制により、コンプライアンスを確立しつつ、リスクの顕在化を未然に防止します。

### (7) 決算の概要

当社グループの貴金属リサイクル事業領域に関して、電子材料分野では、既存顧客の維持および新規顧客開拓により、金・銀・パラジウムのリサイクル原材料回収量は前年同期を上回りました。歯科材料分野では、リサイクル原材料の供給が安定して推移する中でマーケットシェアを拡大し、貴金属回収量は前年同期を上回りました。宝飾加工・製造分野では、流通市場でのリサイクルニーズが追い風となり、貴金属回収量は前年同期を上回りました。なお、貴金属平均販売単価に関しては、金・銀・パラジウム・プラチナのいずれも前年同期の平均販売単価を上回り、インジウムは前年同期の水準を下回りました。

当社グループの環境保全事業領域に関して、写真感光材料分野では、デジタルカメラの普及の影響を受け、写真感材廃液の処理量およびそこに含まれる銀の回収量は前年同期を下回りましたが、工場や試験研究機関等から排出される廃試薬・廃液の取扱量は前年同期を上回りました。また、連結子会社である株式会社三商、日本ケミテック株式会社、株式会社太陽化学および株式会社イヨテックの業績は堅調に推移し、環境保全事業の規模拡大と相乗効果の発揮に貢献いたしました。

以上の結果、当中間連結会計期間の連結売上高は54,392百万円、セグメント別では、貴金属リサイクル事業が47,913百万円、環境保全事業が6,479百万円となりました。利益面では、連結営業利益は4,998百万円、連結経常利益は5,040百万円、連結中間純利益は2,960百万円となりました。中間期としては、過去最高の売上高、営業利益、経常利益、中間純利益を達成することができました。

■ 貸借対照表

(単位：千円)

科目	期別	当中間期末	前中間期末	前期末	科目	期別	当中間期末	前中間期末	前期末
		(平成19年9月30日)	(平成18年9月30日)	(平成19年3月31日)			(平成19年9月30日)	(平成18年9月30日)	(平成19年3月31日)
<b>資産の部</b>					<b>負債の部</b>				
流動資産		21,623,396	19,212,303	19,813,361	流動負債		8,884,986	9,752,269	9,540,663
現金及び預金		1,786,072	1,160,235	1,491,973	支払手形及び買掛金		2,804,027	2,339,677	2,354,333
受取手形及び売掛金		3,990,606	3,361,841	3,371,777	短期借入金		2,200,000	3,550,000	2,250,034
たな卸資産		14,725,183	13,971,330	14,217,377	一年内返済予定長期借入金		17,280	215,080	20,680
繰延税金資産		564,999	427,644	521,876	未払法人税等		2,028,949	1,725,158	2,683,159
その他		561,787	296,890	215,120	賞与引当金		682,334	588,554	624,845
貸倒引当金		△ 5,254	△ 5,638	△ 4,764	役員賞与引当金		20,000	12,500	25,000
固定資産		22,846,879	20,496,912	21,932,900	その他		1,132,395	1,321,298	1,582,609
有形固定資産		21,166,215	19,760,374	21,013,257	固定負債		303,378	322,963	210,830
建物及び構築物		6,739,347	6,306,638	6,305,910	長期借入金		17,890	35,170	25,030
機械装置及び運搬具		4,154,157	3,299,051	3,316,276	退職給付引当金		88,844	81,177	62,691
土地		9,518,014	9,106,168	9,339,854	繰延税金負債		110,843	126,292	110,497
建設仮勘定		206,798	696,215	1,481,731	負のれん		—	80,324	—
その他		547,896	352,300	569,483	その他		85,800	—	12,610
無形固定資産		1,069,901	353,009	308,207	負債合計		9,188,365	10,075,233	9,751,493
1 のれん		793,077	—	—	純資産の部				
その他		276,824	353,009	308,207	株主資本		35,212,014	29,619,786	31,960,079
投資その他の資産		610,762	383,529	611,436	資本金		4,480,817	4,480,817	4,480,817
投資有価証券		141,344	13,450	138,465	2 資本剰余金		6,876,937	6,054,118	6,054,118
繰延税金資産		81,024	45,555	46,166	利益剰余金		23,910,646	19,496,595	21,844,950
その他		400,889	333,555	437,218	自己株式		△ 56,387	△ 411,745	△ 419,807
貸倒引当金		△ 12,496	△ 9,031	△ 10,415	評価・換算差額等		38,689	△ 13,500	4,803
資産合計		44,470,275	39,709,215	41,746,262	その他有価証券評価差額金		2,071	3,804	3,813
					繰延ヘッジ損益		—	△ 2,761	—
					為替換算調整勘定		36,617	△ 14,543	989
					少数株主持分		31,206	27,696	29,886
					純資産合計		35,281,910	29,633,982	31,994,768
					負債純資産合計		44,470,275	39,709,215	41,746,262

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

Point 1

のれんの増加

本年5月、医療系廃棄物や工場廃液等の処理を主たる事業とする株式会社太陽化学を完全子会社化したこと等により、のれんが793百万円増加しました。

Point 2

資本剰余金の増加

株式会社太陽化学との株式交換に伴い、資本剰余金が823百万円増加しました。

■ 損益計算書

(単位：千円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)	(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)	(平成18年4月1日から平成18年3月31日まで)
売上高		54,392,812	45,070,037	97,623,964
売上原価		47,403,415	38,967,321	84,680,290
売上総利益		6,989,397	6,102,715	12,943,674
販売費及び一般管理費		1,991,172	1,633,458	3,365,996
3 営業利益		4,998,224	4,469,257	9,577,678
営業外収益		71,757	17,965	39,044
営業外費用		29,800	13,382	42,738
経常利益		5,040,181	4,473,840	9,573,984
特別利益		13,903	11,326	41,038
特別損失		126,511	101,090	256,525
税金等調整前中間(当期)純利益		4,927,573	4,384,076	9,358,497
法人税、住民税及び事業税		1,989,888	1,662,938	3,681,734
法人税等調整額		△ 23,937	64,551	△ 48,011
少数株主利益		1,320	2,230	4,401
中間(当期)純利益		2,960,301	2,654,356	5,720,372

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

■ 株主資本等変動計算書

(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位：千円)

	株主資本				株主資本合計	評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
平成19年3月31日残高	4,480,817	6,054,118	21,844,950	△ 419,807	31,960,079	3,813	989	4,803	29,886	31,994,768
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△ 894,606		△ 894,606					△ 894,606
中間純利益			2,960,301		2,960,301					2,960,301
自己株式の取得				△ 9,936	△ 9,936					△ 9,936
自己株式の処分			822,819	373,356	1,196,175					1,196,175
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						△ 1,741	35,627	33,886	1,320	35,206
中間連結会計期間中の変動額合計	—	822,819	2,065,695	363,420	3,251,935	△ 1,741	35,627	33,886	1,320	3,287,141
平成19年9月30日残高	4,480,817	6,876,937	23,910,646	△ 56,387	35,212,014	2,071	36,617	38,689	31,206	35,281,910

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

Point 3

営業利益の増加

貴金属回収量および金・銀・パラジウム・プラチナの貴金属平均販売単価が前年同期の水準を上回りました。写真感材廃液の処理量およびそこに含まれる銀の回収量は減少しましたが、工場や試験研究機関等から排出される廃試薬・廃液の取扱量は前年同期の水準を上回りました。

■ キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)	(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)	(平成18年4月1日から平成18年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー		2,367,435	△ 627,265	4,281,352
4 投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 1,068,767	△ 973,855	△ 3,325,275
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 1,208,575	1,177,422	△ 1,052,042
現金及び現金同等物に係る換算差額		19,643	△ 790	3,213
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)		109,735	△ 424,489	△ 92,751
現金及び現金同等物の期首残高		1,491,973	1,584,724	1,584,724
株式交換による現金及び現金同等物の増加額		182,863	—	—
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高		1,784,572	1,160,235	1,491,973

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

Point 4

投資活動によるキャッシュ・フロー

福岡工場および埼玉工場の増設等により、投資活動によるキャッシュ・フローが1,068百万円減少しました。

(平成19年9月30日現在)

■ 貸借対照表

(単位：千円)

科目	期別	当中間期末	前中間期末	前期末
		(平成19年9月30日)	(平成18年9月30日)	(平成19年3月31日)
資産				
流動資産		20,632,574	18,801,112	19,105,435
現金及び預金		1,075,722	669,018	852,182
受取手形		52,121	59,992	48,427
売掛金		2,994,997	2,390,365	2,370,437
たな卸資産		14,633,610	13,895,753	14,186,639
関係会社短期貸付金		898,626	1,155,101	992,320
繰延税金資産		516,048	396,299	486,633
その他流動資産		462,948	237,781	169,994
固定資産		21,382,708	19,025,810	20,519,724
有形固定資産		16,584,272	15,450,283	16,766,068
無形固定資産		298,723	301,372	297,984
投資その他の資産		4,499,712	3,274,155	3,455,671
資産合計		42,015,283	37,826,923	39,625,160
負債				
流動負債		8,409,599	9,234,820	9,068,906
買掛金		2,595,384	2,140,017	2,135,781
短期借入金		2,200,000	3,500,000	2,200,000
一年以内返済予定長期借入金		3,000	200,800	6,400
未払法人税等		1,939,010	1,683,598	2,626,989
賞与引当金		619,636	551,324	588,869
役員賞与引当金		20,000	12,500	25,000
その他流動負債		1,032,569	1,146,580	1,485,865
固定負債		76,842	72,041	50,799
長期借入金		—	3,000	—
退職給付引当金		76,842	69,041	50,799
負債合計		8,486,442	9,306,861	9,119,705
純資産				
株主資本		33,526,740	28,519,510	30,502,038
資本金		4,480,817	4,480,817	4,480,817
資本剰余金		6,876,937	6,054,118	6,054,118
利益剰余金		22,225,372	18,396,318	20,386,909
自己株式		△ 56,387	△ 411,745	△ 419,807
評価・換算差額等		2,100	551	3,416
その他の有価証券評価差額金		2,100	3,312	3,416
繰延ヘッジ損益		—	△ 2,761	—
純資産合計		33,528,841	28,520,061	30,505,454
負債純資産合計		42,015,283	37,826,923	39,625,160

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

■ 損益計算書

(単位：千円)

科目	期別	当中間期	前中間期	前期
		(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)	(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)	(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)
売上高		50,974,146	41,862,184	90,867,957
売上原価		44,925,607	36,435,175	79,319,073
売上総利益		6,048,538	5,427,008	11,548,884
販売費及び一般管理費		1,438,487	1,241,791	2,657,899
営業利益		4,610,051	4,185,217	8,890,985
営業外収益		42,277	23,891	42,202
営業外費用		27,920	12,207	40,457
経常利益		4,624,407	4,196,902	8,892,730
特別利益		60,051	—	2,032
特別損失		105,377	89,959	218,376
税引前中間(当期)純利益		4,579,081	4,106,943	8,676,386
法人税、住民税及び事業税		1,893,926	1,621,497	3,575,748
法人税等調整額		△ 47,913	61,806	△ 31,251
中間(当期)純利益		2,733,069	2,423,638	5,131,890

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

■ 株主資本等変動計算書 (平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)

(単位：千円)

	株主資本						評価・換算差額等		純資産合計		
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他の有価証券評価差額金		評価・換算差額等合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	利益準備金	任意積立金						繰越利益剰余金
平成19年3月31日残高	4,480,817	6,054,118	—	228,417	13,889,260	6,269,231	△ 419,807	30,502,038	3,416	3,416	30,505,454
中間会計期間中の変動額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
特別償却準備金の取崩し	—	—	—	—	△ 12,122	12,122	—	—	—	—	—
別途積立金の積立	—	—	—	—	3,000,000	△ 3,000,000	—	—	—	—	—
剰余金の配当	—	—	—	—	△ 894,606	△ 894,606	—	△ 894,606	—	—	△ 894,606
中間純利益	—	—	—	—	2,733,069	2,733,069	—	2,733,069	—	—	2,733,069
自己株式の取得	—	—	—	—	—	—	△ 9,936	△ 9,936	—	—	△ 9,936
自己株式の処分	—	—	—	822,819	—	—	373,356	1,196,175	—	—	1,196,175
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	—	△ 1,315	△ 1,315	△ 1,315
中間会計期間中の変動額合計	—	—	822,819	—	2,987,877	△ 1,149,414	363,420	3,024,702	△ 1,315	△ 1,315	3,023,387
平成19年9月30日残高	4,480,817	6,054,118	822,819	228,417	16,877,137	5,119,817	△ 56,387	33,526,740	2,100	2,100	33,528,841

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

■ 発行可能株式総数 129,000,000株

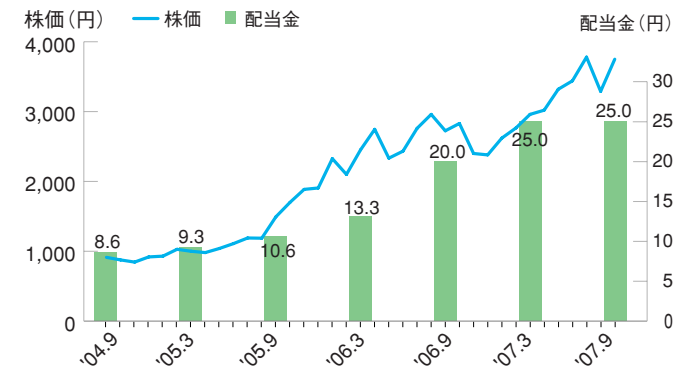
■ 発行済株式の総数 36,254,344株

■ 株主数 9,095名

■ 大株主

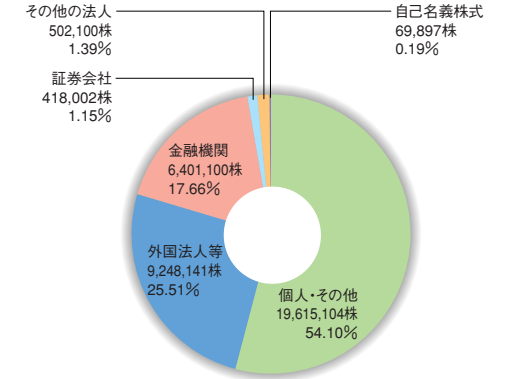
株主名	持株数	持株比率
寺山満春	3,702千株	10.21%
寺山正道	2,702	7.45
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,570	4.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,156	3.18
花井幸子	845	2.33

■ 株価・1株当たり配当金の推移

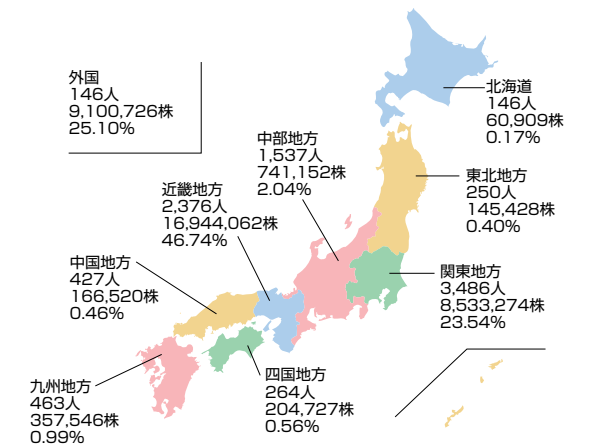


(注) 当社は2006年10月1日付けで株式1株につき1.5株の株式分割を行っておりますので、上記は分割調整後の株価です。

■ 所有株式数別分布状況



■ 地域別株式分布状況



■ 会社概要

商 号	アサヒブリテック株式会社
創 業	1952(昭和27)年7月
資 本 金	44億8千万円
神戸本社所在地	神戸市中央区加納町4-4-17 ニッセイ三宮ビル
従 業 員 数	772名(平成19年9月30日現在)
事 業 内 容	貴金属・希少金属資源のリサイクル 環境保全(産業廃棄物の無害化処理)
子 会 社	日本ケミテック株式会社 株式会社三商 株式会社塩入建材 株式会社イヨテック 株式会社太陽化学 ASAHI G&S SDN. BHD. (マレーシア) 上海朝日浦力環境科技有限公司(中国) 韓国アサヒブリテック株式会社(韓国)

■ 事業所

■ 本社事務所	神戸、東京
■ 研 究 所	テクノセンター
■ 工 場	埼玉、静岡、尼崎、神戸、愛媛、北九州、北九州ひびき、福岡(以上8ヶ所)
■ リサイクルセンター	千葉、尼崎
■ 営 業 所	札幌、青森、仙台、新潟、北関東、関東、横浜、甲府、静岡、名古屋、北陸、大阪、神戸、岡山、広島、四国、福岡、北九州、鹿児島、沖縄(以上20ヶ所)

■ 取締役・執行役員および監査役

代表取締役会長兼社長	寺 山 満 春
取締役 常務執行役員	武 内 義 勝
取締役 常務執行役員	木 村 俊 雄
取締 役 執行 役員	赤 羽 昇 昇
取締 役 執行 役員	東 浦 知 哉
取締 役 執行 役員	平 野 幸 幸
取締 役 技 術 顧 問	嶋 崎 勝 乘
執 行 役 員	権 藤 邦 哲
執 行 役 員	岩 木 寛 昌
執 行 役 員	田 辺 幸 夫
常 勤 監 査 役	井 上 正 己
※ 監 査 役	小 林 貞 和
※ 監 査 役	徳 嶺 彦 明
※ 監 査 役	有 海 澈

※ 会社法第2条第16号に定める社外監査役

■ ISO 14001 取得 拠 点	神戸本社、仙台、北関東、静岡、名古屋、大阪、尼崎工場、尼崎リサイクルセンター、神戸、四国、福岡、テクノセンター
■ ISO 9001 取得 拠 点	福岡、テクノセンター
■ プライバシーマーク取得	
■ 収 集 運 搬 業 許	47都道府県・57政令都市
■ 処 分 業 許 可	12都道府県・9政令都市

# TOPICS

## 株式会社サニックスからの事業の一部譲受け



当社は、平成19年11月6日付けをもって、株式会社サニックスの事業のうち、北九州市門司区における環境資源開発事業部門の一部を譲受けました。

同北九州工場は、一日当たり189トンの焼却処理能力を有するロータリーキルン・ストーカー炉、焼却前処理としての有害廃液処理設備、および一日当たり150トンの能力を有する廃プラスチック破碎設備を有しております。

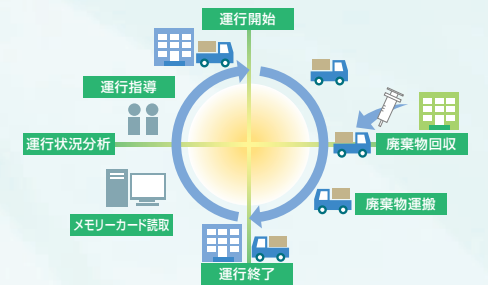
当社は、すでに九州エリアでは福岡県、鹿児島県に事業所を配し環境事業を展開しておりますが、今後当社神戸工場と連携し、西日本エリアの顧客に対するワンストップ型ソリューション体制の一層の充実をはかることとなります。

この譲受けた事業は当社「北九州事業所」として、新たに設置した環境事業九州統括部の下で事業を開始しております。

## エコドライブ管理システム(EMS)の導入

当社は、平成19年4月をもって、車両約400台にデジタルタコグラフを完全導入し、NEDO(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)より平成18年度エネルギー使用合理化事業者支援事業の補助金を受給いたしました。エコドライブ管理システムの導入により、「特定輸送事業者」として省エネルギー対策実現のため、エコドライブを計画的かつ継続的に実施するとともに、運行状況についても客観的な評価・指導を行っております。

デジタルタコグラフの導入により、事故・違反の抑止や燃料の削減に繋がり、前年対比約4%の燃費向上を実現する見込みです。



デジタルタコグラフによる車両運行管理システム